



ASEAN 共同体については日本では懐疑的な報道が多いようだ。確かにASEAN の統合への歩みは遅く課題は多い。しかし、重要なことは、ASEAN が共同体という将来ビジョンを示し、その実現に向けて行動し

タイの政治的混乱のため二〇〇八年十二月から延期されていた第十四回 ASEAN 首脳会議が三月一日にバンコク郊外のホアヒンとチャナムで開催された。会議では二〇一五年に創設される安全保障共同体と社会文化共同体のブループリント(工程表)が採択された。二〇〇七年に採択された経済共同体ブループリントと併せて ASEAN 共同体を構成する三つの共同体のブループリントが揃ったことになる。

ブループリントは共同体で実現する大きな目標とそのために実施すべき措置が明示され、さらに措置ごとに具体目標と、行動計画、スケジュールが示されている。たとえば、経済共同体では四つの大きな目標、十七の措置と七七の行動計画と二〇一五年までのスケジュールが決められている。

未来志向の ASEAN

ていることである。途上国の集まりである ASEAN を揶揄し貶すのは容易だが、ASEAN は未来志向であり戦略的である。この点は今の日本に欠けているものではないか。

ASEAN 共同体は FTA (自由貿易地域) からさらに進んだ統合であり、アジアで初めての試みである。しかも、経済規模、経済発展レベルなど格差が極めて大きく政治体制や社会文化面でも多様な地域の統合である。課題が多いのは当然といえよう。

それでも設計図と予定表は出来た。後はどのように建設するかである。統合のための具体的な行動の大半は加盟国政府が国内措置として実施することになる。従って、重要なのは各国がブループリントを確実に実行するかどうかである。

ASEAN は、欧州共同体のように市場統合については主権の委譲が行われていないし、EC 法のように ASEAN の決定が国内法より優先される法体系を持っていないため、実行を強制できないという弱点がある。ASEAN でのりうる手法は、国別のブループリント実施状況を点検し評価する「スコアカード」と実施状況を明らかにすることなどにより遅れている国に対して無言の圧力をかける「ピア・プレッシャー」である。

このような制約はあっても、十五年かけて FTA を実現したように ASEAN は緩やかな歩みであっても共同体を実現させるであろう。それだけの意思と経験の蓄積と能力はあると見るべきである。(アジア研究所教授 石川幸一)

アジア研究所だより

アジア研究所 第二九回公開講座のご案内
「世界金融危機とアジア」をテーマに六月六日より毎週土曜日(午後二時～三時四五分)に公開講座を開催いたします。

六月六日「世界金融危機の現状と展望」

田村秀男(産経新聞編集委員)

六月三日「アジアは金融危機をどう乗り越えるか」真田幸光(愛知淑徳大学教授)

六月二〇日「経済で躓いた李明博政権」

野副伸一(アジア研究所所長)

六月二七日「岐路に立つ ASEAN 統合は経済危機で停滞するか」

石川幸一(アジア研究所教授)

七月四日「中国は8%成長を維持できるか」

小林照直(アジア研究所教授)

会場 亜細亜大学 2号館 二〇〇教室

ただし、六月十三日(土曜日)は、3号館 3100教室になります。

定員 300名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

受講料 3,000円(全5回一括)は、郵便振替で亜細亜大学アジア研究所 001

006 59772へ振込ください。

振込用紙は、郵便局備え付けの用紙をご利用願います。

初めてお越しの日に振り込み時の「受領証」と引き換えに「受講証」をお渡ししますので、ご持参ください。

* 本学学生・教職員は無料です。

* 問い合わせ先 亜細亜大学 総合企画部学務課

電話 〇四二二 三六 三二七二